

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	普通預金	当座預金	売掛金	前払金
未収入金	仮払金	建物	備品	車両運搬具
土地	買掛金	前受金	未払金	仮受金
当座借越	備品減価償却累計額	売上	固定資産売却益	償却債権取立益
仕入	支払地代	保管費	減価償却費	固定資産売却損

1. 従業員が出張から戻り、さきの普通預金口座への¥300,000の入金は、得意先広島商店に対する売掛金¥120,000の回収および得意先山口商店から受け取った商品¥500,000に対する手付金¥180,000であることが判明した。なお、入金時には内容不明の入金として処理してある。
2. かねて注文していた販売目的の中古自動車¥800,000を引き取り、代金のうち¥100,000については注文時に支払った手付金を充当し、残額は後日支払うこととした。また、その引取運送費（当店負担）¥15,000を現金で支払った。なお、当店は自動車販売業を営んでいる。
3. 店舗の駐車場として使用している土地の本月分の賃借料¥32,500と商品の保管場所として使用している倉庫の本月分の賃借料¥50,000が普通預金口座から引き落とされた。
4. 平成24年1月6日に購入した備品（取得原価¥300,000、残存価額ゼロ、耐用年数5年、定額法で計算、間接法で記帳）が不用になったので、本日（平成27年8月25日）¥100,000で売却し、代金は当座預金口座に振り込まれた。ただし、当座預金口座の残高は¥30,000の借越しとなっている。また、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。
5. 前期に得意先が倒産し、売掛金¥30,000の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い¥20,000の分配を受け、同額が当座預金口座へ振り込まれた。なお、貸倒引当金勘定の残高は¥50,000である。

第2問 (10点)

神奈川商店は、静岡商店、東京商店および千葉商店を仕入先にしており、仕入先元帳を開設している。そこで、次の仕入先元帳の記入をもとにして、答案用紙の買掛金勘定の空欄を埋めなさい。ただし、( )には相手勘定科目を、[ ]には金額を記入すること。

仕 入 先 元 帳			
静岡商店			
4/14	値 引	25,000	1/1 前期繰越 100,000
10/25	現金にて支払	325,000	4/12 仕 入 250,000
12/31	次期繰越	175,000	9/5 仕 入 175,000
		525,000	525,000
		525,000	525,000
東京商店			
6/26	返 品	15,000	1/1 前期繰越 125,000
12/10	約手にて支払	300,000	6/25 仕 入 210,000
12/31	次期繰越	135,000	11/23 仕 入 115,000
		450,000	450,000
		450,000	450,000
千葉商店			
1/10	約手の裏書	150,000	1/1 前期繰越 150,000
		150,000	150,000
		150,000	150,000

第3問 (30点)

次の資料 (A) および (B) にもとづいて、答案用紙の平成28年10月末の合計試算表を作成しなさい。

(A) 平成28年9月30日の合計試算表

合計試算表

平成28年9月30日 (単位：円)

借方	勘定科目	貸方
203,000	現金	74,500
511,500	当座預金	170,500
412,500	受取手形	137,500
665,000	売掛金	242,000
64,000	有価証券	36,500
105,000	繰越商品	
10,000	前払金	
120,000	未収入金	
1,075,000	備品	175,000
135,000	支払手形	405,000
175,000	買掛金	540,000
	借入金	250,000
	未払金	200,000
	前受金	15,500
	貸倒引当金	7,000
87,500	備品減価償却累計額	187,500
	資本金	750,000
	売上	1,600,000
	有価証券売却益	1,000
981,500	仕入	
182,000	給料	
45,000	支払家賃	
2,500	支払利息	
17,500	固定資産売却損	
4,792,000		4,792,000

(B) 平成28年10月中の取引

1. 商品の売上げ

- (1) 現金の受取りによる売上げ ¥791,500
- (2) 約束手形の受取りによる売上げ ¥230,000
- (3) 掛売上げ ¥625,000
- (4) 手付金(前月受取り)による売上げ ¥9,500

2. 商品の仕入れ

- (1) 小切手の振出しによる仕入れ ¥390,000
- (2) 約束手形の振出しによる仕入れ ¥265,000
- (3) 約束手形の裏書譲渡による仕入れ ¥60,000
- (4) 掛仕入れ ¥525,000
- (5) 手付金(前月支払い)による仕入れ ¥10,000

3. 手形の当座預金口座による決済

- (1) 約束手形の期日支払い ¥175,000
- (2) 約束手形の期日入金 ¥210,000

4. 買掛金の小切手の振出しによる支払い ¥440,000

5. 売掛金の当座預金口座への振込み ¥423,000

6. 商品にかかわる手付金の現金による受払い

- (1) 手付金の支払い ¥14,000
- (2) 手付金の受取り ¥16,500

7. 未収入金の当座預金口座への振込み ¥70,000

8. 有価証券(帳簿価額¥16,500)の売却による現金の受取り ¥17,000

9. 備品(代金は翌月払い)の購入 ¥150,000

10. 未払金の小切手の振出しによる支払い ¥200,000

11. 当座預金口座からの引落し

- (1) 給料 ¥182,000
- (2) 家賃 ¥45,000
- (3) 借入金にかかわる利息 ¥2,500

12. 当座預金口座への現金の預入れ ¥790,000

第4問 (8点)

三重商店は、当期の4月1日に、得意先愛知商店に対して現金¥750,000を期間1年として貸し付けた。この貸付けに対する受取利息勘定の記入(推定含む)は次のとおりであった。よって、答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。なお、会計期間は1年、決算日は12月31日である。

受 取 利 息			
12/31	( ? )	( ? )	9/30 当座預金 15,000
			12/31 未収利息 ( ? )
		( ? )	( ? )
1/1	( ? )	7,500	

第5問 (32点)

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は平成27年1月1日から12月31日までの1年間である。

決算整理事項等

- 現金過不足の原因を調査した結果、従業員に対する給料¥7,750を現金で支払ったさいに、金額を誤って¥7,250として記帳していたことが判明した。残額は原因が不明であるので、適切に処理することにした。
- 仮受金の残高は、決算直前に得意先より受け入れた内容不明の入金であったが、その全額が売掛金の回収であることが判明した。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
- 商品の期末棚卸高は¥102,500である。売上原価は「売上原価」の行で計算すること。
- 消耗品の期末未使用高は¥1,500である。
- 建物(耐用年数30年、残存価額は取得原価の10%)および備品(耐用年数5年、残存価額ゼロ)について、それぞれ定額法により減価償却を行う。
- 保険料は、当期の9月1日に支払った店舗に対する1年分の火災保険料である。よって、未経過高を月割計算により計上する。
- 支払利息の決算日までの未払額が¥1,000ある。
- 引出金について、適切な処理を行う。